

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	26	バイオマス資源活用コージェネレーションシステム構築事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(2)-ア		
			3Rの推進				
担当部署名	環境部 環境整備課	事業実施(予定)年度	平成 24 ~ 25 年度	沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-9	
事業内容	離島地域における廃棄物の適正処理の促進及び低炭素社会の実現を図るため、離島外へ搬送し、処理せざるを得なかった建設廃棄物の木くず(バイオマス)を活用して発電・売電を行うなど循環資源エネルギーの地産地消に取り組み、自己完結型の循環資源システムを構築する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	131,091	—	449,360		
		(b) 予算現額	134,903	—	449,360		
		(c) 増減額(b-a)	3,812	—	0		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計(b+d)	134,903	—	449,360		
	B. 執行済額		134,903	—	449,352		
	うち交付金充当額		107,922	—	359,481		
	C. 次年度繰越額		0	—	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	—	100.0%		
予算の状況の説明		予算額のほとんどは委託料である。 平成25年度の予算額が平成24年度の予算額より3倍以上の増額になっているのは、平成24年度末の発電設備、平成25年度の付帯設備の設置に伴い、年間を通して発電設備及び付帯設備のリース料等が発生しているためである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	(平成24年度)発電設備の設置	目標	設置する	—			
		実績	設置した	—			
	自己完結型システム構築に向けた付帯設備の設置及び実証試験の実施	目標	—	設置、実施する			
		実績	—	設置、実施した			
達成状況説明	離島地域における自己完結型の循環資源システム構築のため、平成24年度の発電設備の設置に続き、平成25年度は付帯設備を設置し、実証試験を実施、当初の活動目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(22年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(5年後)
	建設木くずの処理量	目標	—	18,900kg	362,880kg		—
		実績	—	—	27,168kg		
	発電量	目標	—	22,400kW	430,080kW		—
		実績	—	—	54,195kW		
	売電額	目標	—	—	5,200千円		—
		実績	—	—	469千円		
	二酸化炭素削減量	目標	—	20t	402t		—
		実績	—	—	18t		
	進捗状況説明	付帯設備の設置完了が平成25年10月になったことと、沖縄電力(株)との系統連系に時間を要したこともあり、実証試験の開始時期(平成26年1月)が当初見込み(平成25年6月)から大幅に遅くなり、成果目標の実績値は目標値を大きく下回る結果になった。 しかし、平成26年度からは民間事業者による事業化を前提にした実証試験が予定されており、離島地域における自己完結型の循環資源システムの構築については、一定の効果があつたと判断できる。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>事業の円滑な実施には、屋外保管による湿った木くずの燃焼率低下、木くずの不均一サイズに伴うガス化の不安定化への対策、発電設備への木くずの定量、定時間投入が必要不可欠なため、平成24年度の発電設備本体に引き続き、平成25年度は付帯設備(自動供給装置、粒径選別機、風力選別機、ペレット製造設備ほか)を設置した。</p> <p>付帯設備の設置等は、想定以上に時間を要したことから実証試験開始時期(平成26年1月)は当初見込み(平成25年6月)から大幅に遅くなった。</p> <p>本事業は、平成25年度で終了しているが、当該実証試験結果を踏まえ、平成26年度から民間事業者による事業化を前提とした実証試験が予定されており、平成26年度以降、八重山地域で排出される建設木くずは、基本的に全量が自地域内でバイオマス資源として活用できる見込みであり、循環資源エネルギーの地産地消への取り組みは進んでいると言える。</p>	<p>付帯設備(自動供給装置、粒径選別機、風力選別機、ペレット製造設備ほか)の設置により、木くずの燃焼率低下、ガス化の不安定化が回避でき、木くずの定量、低時間投入が可能になり、効果的な実証試験の実施が行えた。</p> <p>当初見込み(平成25年6月)と比較して、実証試験開始時期(平成26年1月)が大幅に遅くなったことから、成果目標の実績値は目標値を大きく下回る結果になったが、当初の活動目標は達成できた。</p> <p>また、平成26年度から本事業の結果を踏まえ、民間事業者による事業化を前提とした実証試験が予定されており、自己完結型の循環資源システムの構築にも一定の目的が立ったと言える。</p> <p>今後、委託事業を実施する際には、事業遂行能力を含めた事業計画全体の審査体制をより一層強化するとともに、業務委託締結後は、委託事業が適切に執行されるよう進捗管理を徹底する必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>本事業は、平成25年度で終了となっている。</p> <p>しかし、平成25年度までの実証試験結果を踏まえて、平成26年度からは民間事業者による事業化を前提とした実証試験が予定されており、離島地域における自己完結型の循環資源システムの構築がより一層進むものと期待される。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
449,352	449,352	359,481	89,870	0	0	0


```

    graph LR
      A[沖縄県  
交付対象事業費  
449,352千円] --> B[委託料  
448,909千円]
      A --> C[事務費  
443千円]
      B --> D["(株)バイオマス再資源化センター  
ヤンマー沖縄(株)共同企業体  
448,909千円"]
      D --- E["バイオマス資源活用コージェネレーション  
システム構築にかかる委託業務  
(株)バイオマス再資源化センター、  
ヤンマー沖縄(株)"]
      C --- F["( 需用費、旅費 )"]
  
```

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○企画提案競争で選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初見込額と大幅な乖離はなかった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ —
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○額確定に際し支出等関係書類を確認、適正であった。